

学校教育の重点 2023

校長 細野 輝彦

新年度が始まりました。明るく元気な子どもたちに囲まれ、この伝統ある北京日本人学校の学校経営を任されたことに責任の重さをひとときわ感じているところです。今年度、27名の小学部1年生、22名の中学部1年生を迎え、児童生徒数247名、教職員数26名でスタートいたしました。保護者の皆様をはじめ、学校理事の皆様、関係機関の方々の温かいご支援とご協力をいただき本校の教育活動の充実に努めたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、今年度も「児童生徒たちによる学習習慣と生活習慣を身に付けさせること」をミッションとし、右の6つの視点を重点に、教職員一丸となり教育活動を推進して参ります。

その中から、特に、3つの項目について、この場で説明させていただきます。

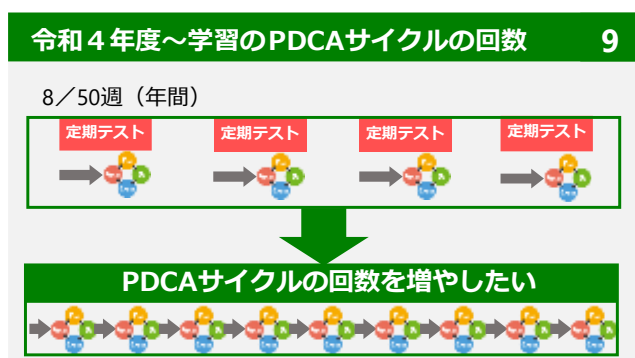
1つ目は、「各教科と連携した読書活動の推進」についてです。朝10分間の読書の時間を設け、本を読む習慣を身に付けさせていこうと考えています。そして、コロナ前に行っていた保護者の方による読書ボランティアの読み聞かせを再開させていただければと思いますので、ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。また、本校の図書室には、雑誌、新刊など様々なジャンルの読み物があります。それらは、教員が

JSB 2023 学校教育の重点



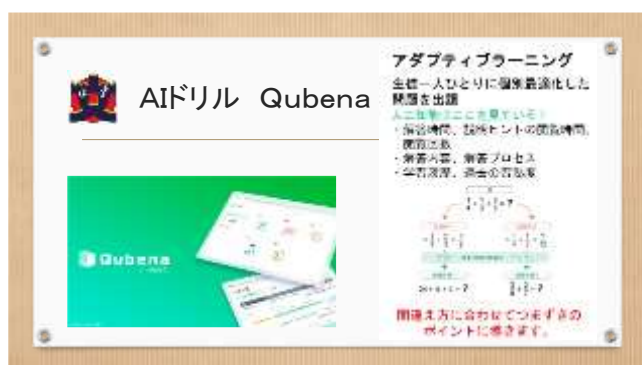
教科と関連させて購入するだけでなく、年1回のポプラ社の図書展示会の際、児童生徒が実際に本を手にとって図書室に置きたい本を選び、購入しています。関連図書、季節の本、言語活動の補助本などのコーナーを作り、児童生徒の興味関心を高める環境作りに努

めて参ります。さらに、国語科を中心とした「年間読書指導計画」を基に、図書室の本を活用した学習を実施するとともに、図書や国語の時間を中心として、本の検索方法や情報の取捨選択の方法を学び、情報活用能力も養って参ります。



2つ目は、ICTの中の「AIドリル「Qubena」を活用した個別最適な学びの追求」です。今年度も、AIドリルの「Qubena」を活用し、児童生徒一人一人の間違え方（つまずきのポイント）に合わせて、個別最適な学びを追求してまいります。夏休み前の7月17日（月）～21日（金）、冬

休み前の12月4日（月）～8日（金）までの期間に、個人懇談を計画していますが、特に、その際に、AIドリルの「Qubena」の学習ログ等も用いて、学習の成果やつまずき、学校生活の様子などを、担任と保護者で、個別に懇談を行い、お子様の成長を実感できる場を設けて参ります。



3つ目は、中学部の学習指導の中の「自らの学びを自己調整する学習システム」についてです。昨年度の学習アンケートの結果から、中学部の生徒は、定期テスト前は計画的に学習を行っていますが、定期テストがない期間（時期）は学習が計画的に行えていない傾向にあることが分

かりました。そこで、今年度の学習指導は、生徒1人1人が1年間を通して、自分の学習を調整し改善していけるようなシステムを導入して参ります。学習計画、取り組み、振り返り、改善の「学習 PDCA サイクル」を数多く回し、自分自身で学習を調整していく力を身に付けることが目的です。テストの回数を増やすために、定期テストに替えて、単元テストを用いて学習指導に当たっていきます。1年間を通して学習を改善し続けることで、さらなる学力向上やこの先の有意義な受検勉強に繋がっていくと考えます。ご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

最後になりますが、保護者や学校理事の皆様、関係機関の方々と連携しつつ、北京日本学校の子供生徒たちが自分の成長を実感することができるように教職員一丸となり取り組んで参りますので、ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。